

2025年6月10日（火）

「適切な関わり方とは何か」

令和7年度特定教育・保育施設向けの集団指導説明会
流山市生涯学習センター

はじめに

流山市役所 保育課 心理士 2年目
要配慮児童保育コンシェルジュ業務に従事

- ・ 配慮を要するお子様が「保育所を利用したい」と希望した際
保護者様とお子様へ面談を行って、
入所後にどのような配慮が必要かお聞きして
園と情報を共有しています
- ・ 実際に入所されたお子様の対応に園が困っている際
「どのような対応が望ましいのか」一緒に検討しています
ワークショップもそのひとつになります
- ・ 他にも児童発達支援センター や こども家庭課との連携
お子様への支援が円滑になるように努めています

配慮を要するお子様の事例検討会

流山市認可保育施設の全保育士が対象です

-流山市 保育ワークショップ-

メールやレターボックスで配信しています

令和6年度から配慮を要するお子様に関心のある保育士のワークショップ（通称）『保育ワークショップ』を四期に分けて通年開催しています。

このワークショップでは、心理士がファシリテーターを行い、**配慮を要するお子様の接し方を検討する場**を提供しています。同じような境遇にいる方同士で日ごろの悩みを共有しませんか。皆様の参加を心よりお待ちしております。

ご案内

日時： 4月21日（月）
5月19日（月）
6月23日（月）
14:30 ～ 16:00
受付開始（14:20）

会場： 流山市役所 **第二庁舎3階 302会議室**
・昨年度と会場が変わりましたのでご注意ください
・駐車場は第2臨時駐車場をご利用ください

内容： 事例検討
・約30分毎で2事例予定しています
・春期は新年度で対応に困った児童に関する悩みを中心に話し合う予定です
・参加者から事例提供を募集しています

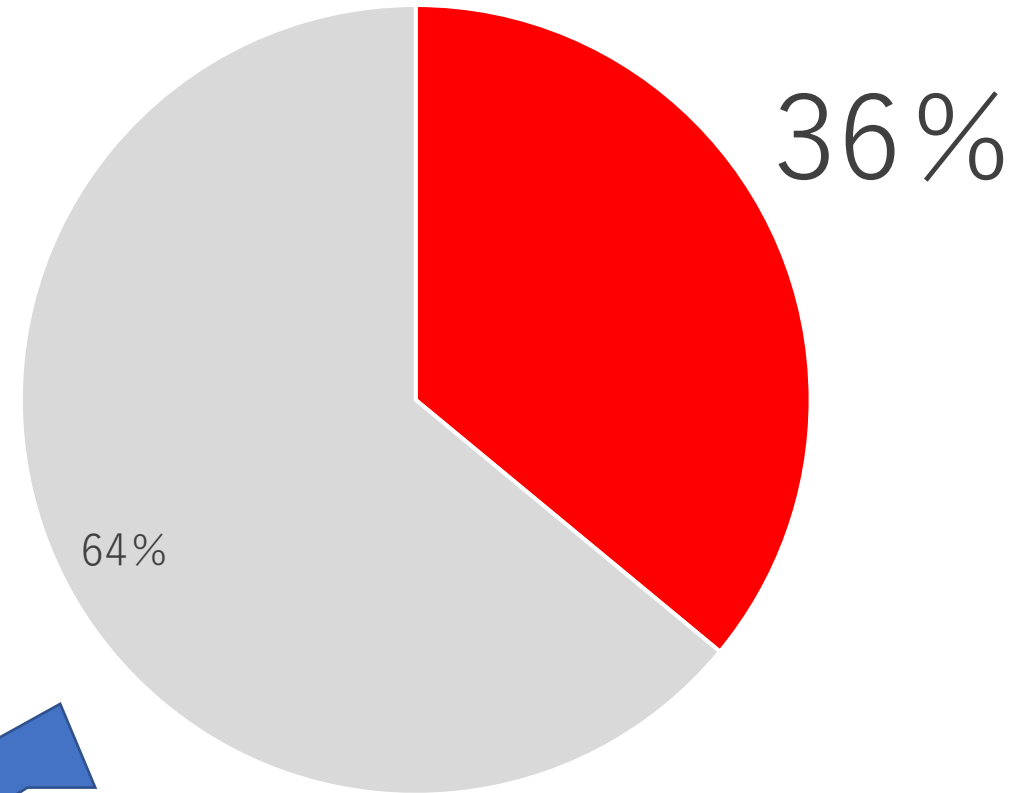
3回まとめて申し込むことも
1回だけ申し込むことも出来ます

定員20名
（会場に限りがあるため定員になり次第
〆切とさせていただきます）

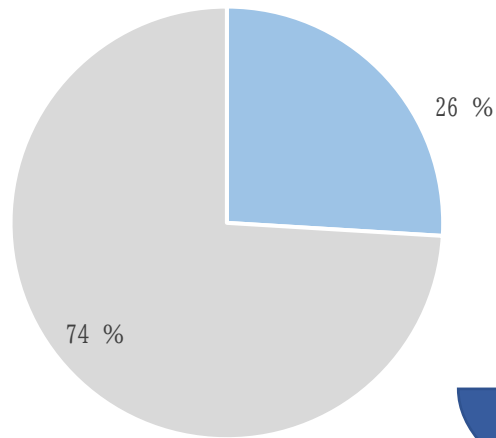


令和6年度加配保育士ワークショップ 7～9月（第一期）参加者延数	44名
10～12月（秋期）	49名
1～3月（冬期）	34名
年間（令和6年度）	127名

令和6～7年度 保育ワークショップ参加状況



令和6年度 ワークショップ参加状況 27園



一度でも参加いただいた園

配慮を要するお子様への関心の高さ

本日の内容

- 1 適切な声掛け
- 2 保護者の障害受容



1 「適切な声掛け」



近年あったニュース A市の認可保育所



A市の認可保育園にて、手足口病に感染した疑いがある0歳の園児を段ボール箱の中に入れて、一時隔離していたことがわかり、A市は不適切な保育だとして、口頭で注意したうえで、改善を求めました。

保育園は「手足口病とみられる発疹の症状が悪化し、ほかの園児や職員への感染を防ぐためだった」と説明して、園内の事務室で一時隔離していたということですが、手足口病は感染症ではあるものの、学校保健安全法で出席停止の対象にはなっていません。

市は不適切な保育にあたるとして、保育園に対して口頭で注意したとしています。

こんな段ボールだったら？

A



B



C



どんな段ボールだったのでしょうか…

受け止める人が**適切でない**と受け止めた時点でOUT

- 判断は個人によって許容できる部分は変わってくる
- 人の価値観自体は変えようと思えない限りは
受け止められない
(強要して変えられるものでもない)

流山市保育の質のガイドライン

流山市保育の質の ガイドライン



平成30年8月

流山市



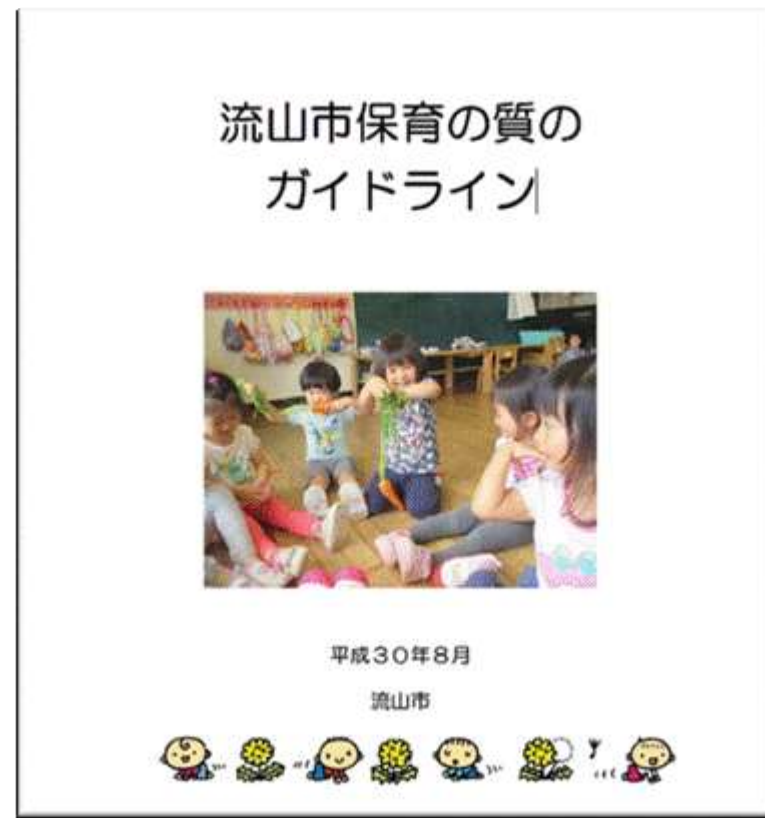
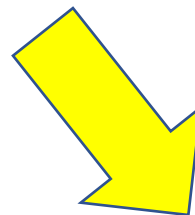
こどもの権利・職員に求められる資質

こどもの権利は、すべてのこどもが心身ともに健康に、自分らしく育つための権利であり、私たち大人は、その権利を守る責任があります。 (P.4)

現在、こどもを取り巻く環境は多様化していますが、こども自身の特性などの状況を踏まえ、こどもに寄り添う保育を展開することが必要になっています。

職員に求められる資質

日ごろからこどもと心が通じ合うように十分にコミュニケーションをとることが大切です。
こどもはありのままの自分を受け止めてもらえることに心地よさを感じ、相手への信頼をよりどころとし生きる力の基礎を培っていきます。



特性があるこどもへの
保育も例外ではない

第一に：保育の主体は“こども”です

ガイドラインの冒頭にたち戻り

こどもの権利 が保育の一番大切にしている点です

すべてのこどもが心身ともに健康に、自分らしく育つ

私たち大人は、その権利を守る責任があります

現在、こどもを取り巻く環境は多様化していますが

こども自身の特性などの状況を踏まえ

こどもに寄り添う 保育を展開することが必要

になってきています

こどもが表現している事って イライラを例に（何に困っている）？



” 仕事がうまくいかない “

⇒大人は「仕事がうまくい
かなくて」と答えてくれる

こどもは大人ほど
セルフモニタリン
グできない



” 僕はこうしたいのに “
何となくモヤモヤする

⇒” 先生が見ているのが嫌だった “
言われても論点がずれている事が多い

こどもが表現している事って？

大人でも腹痛が起きたり

こどもは別の形で（象徴的）自己表現

こどもに寄り添うためには

こどもの気持ちをアセスメントして
くみ取る努力が大切です

こどもが表現している事って？

何か別の意味があるかもしれません。

園での行動

- 暴力
- ドアを蹴る行動
- 先生を困らせる事

推測される理由

- ➡ 家で話を聞いてもらえない
- ➡ やりたい事を認めてくれない
- ➡ 何かほっとできない



象徴的な表現

直接的な理由

よくしようとここにアプローチしても

本人に直接介入しても
余り変化を期待できない

本人の努力

介入出来る
余地はここ

対処法

日常生活の様子を聞いていくと

- ➡ 母親が妊娠中
- ➡ 兄弟が多くてママを独占できない
- ➡ いつも怒られてばかり

推測される背景

※クールダウン、ストレス発散（習い事・枕叩き）、自分を見る力（これはもっと後）等

園での行動

- 暴力
- ドアを蹴る行動
- 先生を困らせる事

何か別の意味があるかもしれません。

推測される理由

- ➡ 家で話を聞いてもらえない
- ➡ やりたい事を認めてくれない
- ➡ 何かほっとできない

日常の様子を聞いていくと

- ➡ 母親が妊娠中
- ➡ 兄弟が多くママを独占できない
- ➡ いつも怒られてばかり

受容的関わり：

気持ちを汲んであげる

『つらい気持ちがあるなら、ここで一緒に遊ぼうよ』

『お母さんが忙しそうで寂しかったんだね』 と

ただ、それを言葉にしたいかも重要

もどかしいけれど、ハグしたり、隣を歩くだけでも（そこに気持ちを汲もうとする意思があるなら）大切な育ちを見守る行為に。

言語で明確化

共感的に解釈

安心感の中で葛藤出来る環境を整えてあげてください

例：悲しかったんだね。やりたかったんだもんね。でも、このままだと怪我するからこっちで遊んでみてはどう？

「人とともにいながら自分でいる」 「私」の形成を促す

- “自分らしくいていい” という体験をすると
- 心の中を自由に表現し、自分の内面と向き合う事が出来るようになって不安が低減して他者とともにいられるようになっていきます。

(コンティンされて、安心して他人と居れる)

- 他者とともに居られるということは

「私はわたしのままでよい」

ありのままの私で居られる体験を積む事が出来るわけです

私は無条件で生きていてよいのね



言い換えのワーク

point

- こどもを主体に考えて
こどもにどうしてもらえると良いのかを考えてみましょう

言い換えてみましょう

- ①走らないで
- ②登らないで
- ③うるさい
- ④そっち行かないで
- ⑤片付けしないと怒るよ

ぜひ各園でも行って
みてください

回答例

- ①走らないで
- ②登らないで
- ③うるさい
- ④そっち行かないで
- ⑤片付けしないと
怒るよ



- ①歩こうね
- ②降りようね
- ③小さな声でお話ししてね
しーだよ
- ④ここに座ってー
- ⑤なくならないように片付けよう

ワークショップでの意見では同じ、「走らないで」でも
怒鳴るのか 相手を思っているのでは違う
という意見が出ました

さらに配慮を要するこどもへの対応となると

- 普段の保育場面でさえ、適切な保育が悩む事がいっぱい。
- 大事な事は**配慮のポイント**を知る事



しつけや育て方で問題が起こるわけではない

- 脳の機能の偏りが関係する、生まれながらの特性であることを理解しましょう。
- 落ち着きがない、上手に自分を表現する事ができない発達障害のこどもは、周囲から「親の育て方のせいでは？」と心ない指摘を受ける事があります。
- しかし、発達障害は生まれつきの特性であり、しつけや育て方は関係ありません。
- ADHDは学童期で3～7%（20人にひとり）いると言われています。**程度の差を差し引けば、だれにも有り得る性質です**

特性は原因探しではなく、こどもを知る手がかりとして受け止めていきましょう

配慮の実際 ADHDの場合

不注意

気が散りやすい
興味ないことや
意欲がわからないことは
注意が続きません

衝動性

待つことや我慢する事
が苦手です

多動性

落ち着きがなくじっとして
いられない

- 脳の機能の話なので なおる なおらない という話ではありません
- それに気づいている子どもも多く、自分自身でコントロールできないものかしさに悩んでいる事が多いです 自己肯定感が下がりがちです

⇒二次障害が起こる悪循環になりがち

- うまく付き合うのには、冷静な対処方法の獲得とほめ上手になること
- 感情的にならず、気持ちを理解して受けとめる事が大切です

対応のポイント ADHDの場合

- ・感情的に叱らず、理由を説明する
- ・毎日の日課やルールを決め、それを予定通りこなしたり、守れた事で「出来た!」、「できるじゃん!」の経験を増やす
- ・いきなり全てを要求せず、簡単なことから少しずつ取り組む
- ・忘れても、思い出して行動できる仕組みをつくる
(貼紙・チェックリスト・メモ)
- ・出来たら褒める、やる気を引き出す声掛けをする、ご褒美も

配慮の実際 自閉スペクトラム症の場合

コミュニケーションと
相互交流の困難

- ・言葉を互いにやり取りしたり、関心や気持ちの共有が難しい
- ・視線・表情・ジェスチャーなどによる互いにやり取りが難しい
- ・ごっこ遊び、友達関係の構築が難しい

こだわりの強さと感覚への反応

- ・同一の行動を繰り返す
- ・変化を嫌う
- ・特定のものへ強い関心を示す
- ・特定の感覚に過敏（または鈍感）で、その感覚にこだわる

発語の遅れが目立たない
アスペルガー症候群を含みます

自閉症のおよそ70%が
知的な遅れを伴います

軽ければ生活が楽かという
とそうではありません
周囲に存在を気づかれない
問題もあります（カモフラージュという概念もあります）

対応のポイント 自閉スペクトラム症の場合

- 頭ごなしにしない
- 嫌な音がしないなど、その子が落ち着ける状態で話をする
- 短い言葉で具体的に示す
- 指示はひとつずつ伝える
- 言葉で伝わらなければ、視覚で伝える
- あらかじめ終わりの時間を伝えるなど、先の見通しをもたせる
- やりたいことを無理に取り上げず、「〇回だけね」と約束する

2 「保護者の障害受容」

キューブラーロスの死の受容から障害受容を考える



疑似体験 もしこどもが 発達障害があると診断されたら

- ※体験してほしいとは言え、距離が取れそうにない時は近所の人、遠い親戚など苦しくない程度の方の事として想像してください。

妊娠して32週目、家で夕飯を食べていると
急に座ってもいられない痛みで救急搬送
そのまま緊急帝王切開

- 体重2014g
仮死状態と言われたけれども、
『いま落ち着きました』と医師から告げられた。

あなたがこの状況だったら、どう感じたでしょうか？

N I C U で入院 3 か月

むくみも少し収まり、毎日ミルクを病院に届ける生活
出生して1週間、NICUで医師から『ADHDや自閉スペクトラム症の
リスクは普通に生まれてくるよりも2～3倍高いです』
と告げられる。

それでも小さいながらも呼吸をしている子を見て、
「生まれてきてくれてありがとう」と思いながら退院。

1 歳になり、復職を考え始めました

- 夜中なかなか寝付かず、抱っこしていても大声で泣きながら反りかえる。泣きつかれたのか、何とか1時間かけて寝かしつけ、いつのまにかうとうとと自分も寝てしまう毎日。
- 気づくと9か月、なかなか寝返りがうまくいかないなと思いながら、やっと座って安定し始めました。
- 1歳の誕生日、まだつかまり立ちが不安定なわがこを心配しつつも、そろそろ家計を考えると仕事をした方が良いのではという考えがよぎります。

何とか保育所に入所できました

- 1歳半、何とか保育所にも入所する事ができ、9時～16時で復帰。毎月フォローで行っていた病院からは、半年で経過を見るように言われます。歩行は少し前に歩き始めて、少し安堵した頃。
- 言葉はなんとなく、「アンアンナン」とかを話している事がありました。最近では余り話さなくなってきました。
- 寝そべりながら転がるボールを横目で見ている子を見て、『大丈夫かな』と不安になります。

2歳になった とある日、担任から

迎えに行ったとき、担任から話がありますと呼び止められ、

『発達に遅れがあるようで気になります』

『療育を使った方が良いでしょう』

と言われました。

あなたは今どのように感じたのでしょうか？

保護者の気持ちとして予測される事

- ついに来たか
- 先生のいう通りだった
- そんなばかな、そんなはずがない
- なんでそんな事言われなくちゃいけないんだろう
- なんの事が考えられない

保護者の受容

- その人の人生には背景があります。
- 受容過程は、保護者がどのように告知されたか、この避けられない出来事を徐々に認識していくのにどれくらいの時間が必要だったか、そしてこれまでの人生においてこの危機的状況に対処する準備ができていたかどうか、によって大きく左右されます。

でも、多かれ少なかれ 心を守る機能を使っています。

防衛機能

- 心理学では内面で自分を安定させておくために働いている機能

例) ☐躁的防衛

テンション高く、大丈夫と思ったお母さんも実は無理している可能性があるかも

☐知性化

知識の盾。いっぱい発達の事を調べて勉強や知的な活動で満たそうとする

☐隔離

考えている事と感情を切り離して考えようとする

もっともはじめに起こりやすい防衛

☐ 否認

読んで字のごとく、認めない事です。

似たような心の移行過程

-
- 階段 → 1 2 3 4 5
- 希望
- 受容
- 虚脱
- 抑うつ
- 準備的悲嘆
- 取引
- 怒り
- 否認
- 部分的否認
- 衝撃
- 時間 →
- ▲ 致命疾患の自覚
- ▲ 死

第1段階 否認と孤立

- 患者は診断を知らされると衝撃を受け、それを自己防衛する手段として否認という反応を見せることが多い。

「私がガンなわけがない」

障害受容に置き換えてみましょう

- 私のこどもに限ってまさか？
- そんなわけがない

第2段階 怒り

- 否認の段階から、怒り・激情・妬み・憤慨などの感情に変わる。
「どうして私がガンなのか」

障害受容に置き換えてみましょう

どうして私のこどもに限ってそうなの！

という激しい気持ちは、行き場がなくなって怒りになってしまう。

第3段階 取引

- 取引を試みる段階
- 神様、何とかしてよ、この子が普通に暮らせるなら私は頑張るから。

第4段階 抑うつ

- 障害が発覚して通院や相談に行く時間が必要となって予定がつかまったり、お金を工面したり、仕事を休まざるをえなくなったりする事などから生じる抑うつ。
- 「なんでこんなに時間がかかっちゃうんだろう」
- 「病院では大丈夫って言われたのに」
- 「ずっと付き合っていていかなくちゃいけないんだもんね」という心の準備をしなくてはならないという深い苦悩から生じる抑うつ

第5段階 受容

- これまでのいくつかの段階を通過するにあたって何らかの援助が得られれば、自分の置かれた状況に対する怒りや抑うつが軽減して、物事を受け止められるようになる。

- 仕方ないよね
- 私たちなら育てられるって、うちを選んできてくれたんだね
- これから長いんだし、のんびり付き合おう
- やれる事をひとつずつかな

受容したとしても、「もしかしたら何もないのかも」
など行ったりきたり・・・

キューブラーロスから学ぶ受容とは

- 「わたしたちの目標は、はっきりした5つの段階を次々に通らせ、最終的に受容へ到達させる、ということではないのだと認識することが大切です。（中略）
- わたしたちの目指すところは患者のニーズを引き出すことにあるべきです。

いま、かれがどこにいるかを見つけだすこと、そして、かれの病気、あるいは事故と実際の死との時間的距離が長い短いにかかわりなく、わたしたちがかれを、どんな形で、どんな仕方で助けられるだろうかを発見することではなければなりません」

- このように、この“段階をたどること”に固執することで、本来の意義を見失ってはならない。

キューブラーロスから学ぶ受容のヒント

⇒これを障害受容過程について置き換えてみましょう
わたしたちの目標は保護者に「最終的に障害を受容させる
事へ到達させる（療育につなぐ）」のも一つのゴールですが、
目指すところは保護者と子どもにとってのニーズを引き出
すことにあるべきです。

保護者は悩みを抱えています

キューブラーロスが心を痛めたのは、死にゆく人に起こる心身の変化が周囲の人々に理解されずに孤独なまま亡くなっていくことであったそうです。

これも発達障害の受容に置き換えると
悩みがあっても、人に言えずに悩んでいます

我々（支援者・保育者）が保護者を受け止めていく過程は、

対話のなかで、保護者の思いを知ろうとし、保護者とともに学び、
成熟していくチャンスと捉えていけると良いでしょう。

グループワーク

もう一度、同じようなこどもに出会ったとき
あなたが担任だったら、どんな声掛けをしてあげたいですか？

『発達に遅れがあるようで気になります』

『療育を使った方が良いでしょう』

POINT

保護者とこどもにとってのニーズを引き出すこと

あなたが担任だったらどんな声掛けがよいでしょう？ (回答例)

『発達に遅れがあるようで気になります』

『療育を使った方が良いでしょう』

POINT



『保護者とこども』 にとってのニーズを引き出すこと

大事ななのは

まず、お子様の報告連絡相談から

「いまでも十分に体を動かす事が出来ています（今出来ている事を伝える）
でも、活動を見ているとちょっぴり話すのが苦手なみたいです（苦手な理由）

ここで、関係性をしっかり築いて、話せる信頼関係を作っていきます。

あなたが担任だったらどんな声掛けがよいでしょう？ (回答例)

- さきほどの保護者の障害受容過程がどこにあるかを確認しながら
- 保護者も困っているという自己開示（これは関係性がないと出てきません）がいたただけたら

相談ベースで

例)

「もし、療育が使う事が出来たら、もっと伸びが期待できますよ」

「一度療育相談に行くと、いい案をもらえるかもしれません」

この時に

保育施設の利益ではなく、保護者とこどもにとってのメリットを伝えてください。

困ったら専門職の力を借りましょう

Q.もし、自己開示が得られなかったら

保護者の障害受容は進んでいないのかもしれませんが。まだ、伝える時期ではないのかもしれないという事を頭に入れておいた方が良いでしょう。

しかし、どうしても相談しなくちゃならないという時期があるかと思います。その時は遠慮せずに専門職の力を借りましょう。

“**児童発達支援センター**”が巡回相談、“**幼児教育支援センター**”がクラスづくりへのアドバイスを行っています

“**保育課**”でも“**保育ワークショップ**”や“**フォロー訪問**”でお子様の対応についてご相談を受け付けています。

何よりも『どこに相談したら良いかわからない』という事があるかと思います。その時はお気軽に保育課**心理士**へご連絡ください。対応出来る内容であれば一緒に検討して参りますし、出来ない場合もどこに相談したら良いか一緒に考えます。

適切な関わり方を行うためには

- 相手の気持ちに寄り添った対応が大切
- こどもを主体に考えていきましょう
- 関係性をしっかり築いて、保護者と話せる雰囲気を作っていきます
- 否認や怒りの段階にある保護者には、無理強いせずに、『お気持ちを察する』、『一緒に考えていく事は出来る』というスタンスを提示していきましょう
- よく休んで、余裕を持ってください
(疲れていると相手への配慮ができなくなります)

こどもと良い関係を築くために

すぐに上級者にはなりません。地道に力をつけていきましょう

1. こどもの行動をよく観察しましょう
2. こどもの話にしっかりと耳を傾けましょう
3. こどもへの伝え方には工夫が必要です
4. ほめ上手になりましょう
5. 取り組みはスモールステップで
6. 無理強いは禁物です
7. 叱る前のひと呼吸 保育者の感情コントロールも大切です
8. 保育者が一緒に取り組む機会をつくりましょう

褒め上手になりましょう 十か条

1. 具体的に褒める
2. 抽象的に褒める
3. すぐに褒める
4. 「これは！」と思う事を、いつまでもしみじみ褒める
5. 理由をつけて褒める
6. 理由なしに褒める
7. 褒め言葉のバリエーションを増やす
8. 感謝の言葉も誉め言葉である
9. 第三者も褒めていたと伝える
10. その人の気持ちを汲んで褒める

引用：「親力」できる子どもを伸ばすために親が出来ること

本日の講話はこちらの本を参考にお話しています

- 言葉かけから見直す
「不適切な保育」脱却のススメ
- 発達障害のある子と家族に
よりそう安心サポートBOOK

